

学校名	府立富田林中学校・高等学校	名前
-----	---------------	----

1 学校教育目標（めざす生徒像）

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考えて行動し、国際社会に貢献する人材」
〈 中高一貫教育を通して育みたい力 〉

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 令和3年度の校内研究の取組み

(1) 研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

「確かな学力を育成する“授業・評価”サイクルづくり
～ アクティブ・ラーニングによる思考力・判断力・表現力の育成とその評価 ～」

②テーマ設定理由

本校はこれまで校内授業研究テーマを設定していなかったが、大きな目標に沿って授業研究を進めることが大切であるという考えの下、本テーマは令和2年度に設定された。

まず初めに、授業改革推進委員会で「授業と評価の一体化」や「思考力・判断力・表現力の育成」などといった本校の課題となるキーワードが出された。そこにSSHの仮説として従来から研究していた「アクティブ・ラーニング」を明確に意識できるよう加え、以後数年かけて取り組むものとしてテーマを設定した。

(2) 校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

- (ア) 定期テストには思考・判断・表現を問う発展的な問題を入れる
- (イ) 思考力・判断力・表現力等を育むことができるような学習活動を意識する
- (ウ) 観点別学習状況評価についての共通理解を図る

②具体的な取組み

- (ア) ・形式を決めて、テスト問題や採点基準を集積、共有した。
 - ・定期テストと外部テストとの成績をクロス分析し、内容や難易度を検討した。
- (イ) ・(ア) でテスト問題を集積する際に、その問題と関連する授業での学習活動（言語活動）を記入するようにした。
 - ・授業改革WEEKS（授業見学週間）の見学シート of 観点に入れ、授業者・見学者が意識しやすいようにした。

- ・研究テーマの中でも「思考力・判断力・表現力の育成とその評価」に焦点を当てて研究授業や地域公開授業（全体会も含む）を実施した。
- (ウ)・5月、8月、11月の研修時にアンケートを実施し、後日全ての質問内容に回答することで理解を深めた。
- ・観点別学習状況評価の算出方法について、算出ファイルの使用法の研修を通して共通理解を図った。
- ・各教科で評価方法の共有を行った。

③取組みの検証方法

◎校内授業研究に関するアンケートを実施

- (ア)・集積状況の確認、集積したものを基にした授業方法とテスト問題の検討
 - ・学力向上推進委員会によるテスト問題の難易度の検証
- (イ)・学習活動を記入した用紙の集積状況の確認
 - ・授業改革WEEKSの振り返りを実施
- (ウ)・中学：評価実施時に交流
高校：後期の成績で試行

3 取組みの検証

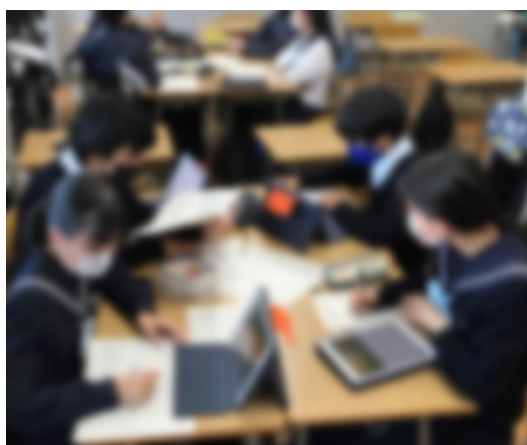
(1) 校内研究の成果

- (ア) 先生方の会話からは意識している様子が伺え、テスト問題の変容も見られる。
だが、テスト問題と学習活動を関連させてまとめるシートの集積は不十分で、それを基に学習活動まで教科で検討するには至らなかった。
- (イ) 生徒に考えさせる時間を重視した授業が増え、授業内容や学習活動について話し合う機会も多くなっている。
- (ウ) 中学：評価時に確認した。
高校：現在、後期の評価材料を使って試行中である。その上で疑問点があれば教務部や授業改革推進委員会に相談することになっている。

(2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

- 観点の明確化による、課題意識を持った学び
 - ・テスト問題が、全教科統一して「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点到整理されたことにより、生徒自身が苦手な力を把握しやすくなった。
 - ・どの授業でも「思考・判断・表現」を意識した学習活動を入れることで、生徒が自分の考えを臆せずに表示することができるようになっている。
- ICT等を活用した、他者意識を持った対話的な学び
 - ・時勢によりグループ活動などによる対話的な学びは制限されることがあったが、一人一台端末を活用することによって、クラスで相互に学び合う姿が見られた。
 - ・書いたものを他者と交流する、発表を録画して他者に見せる、などの活動により、わかりやすく表示することに対する意識が高まった。

- ・グローバル学習の一環として、直接交流に代わる機会としてICT等を使って海外と交流する機会を設定したことで、相手にわかりやすく伝えるために考え、表現する力が育まれた。



↑ 各自で調べたものをグループで交流



↑ スライドを作成しグループで発表

(3) 教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか）

校内授業研究に関するアンケート結果（割合）

	質問事項	思う		少し思う		あまり思わない		思わない	
		20年度	21年度	20年度	21年度	20年度	21年度	20年度	21年度
1	校内授業研究の必要性の理解や課題の共有化ができています	46%	51%	45%	47%	9%	2%	0%	0%
2	校内授業研究は目的が明確であり、組織的にかつ計画的に行われている	61%	78%	30%	19%	7%	3%	2%	0%
3	学 授業改革DAY・WEEKSでは有意義な研究授業及び効果的な討議会が行われた	48%	58%	39%	41%	11%	2%	2%	0%
4	校 各々が校外研修・研究会等で得た事が、校内で有効に活用されている	25%	29%	43%	59%	27%	12%	5%	0%
5	教員どうしの授業公開が積極的に行われている	27%	53%	41%	37%	32%	10%	0%	0%
6	学校全体として、校内授業研究のテーマに基づいた授業づくりが行われている	21%	36%	55%	51%	21%	14%	2%	0%
7	校内授業研究のテーマ(研究主題)を意識して授業を行っている	34%	24%	36%	62%	19%	13%	11%	2%
8	研究授業や討議会に積極的に参加した	43%	41%	43%	44%	13%	14%	2%	2%
9	研究授業や討議会で検証したことを日々の授業に活かすようにしている	37%	42%	47%	56%	12%	2%	4%	0%
10	個 授業改革DAYの全体会の講演は、授業改善に有効であった	58%	60%	30%	29%	10%	11%	2%	0%
11	人 授業や教材で工夫したことを、積極的に報告したり交流したりしている	21%	24%	46%	51%	25%	19%	7%	7%
12	校外研修・研究会等に参加し、得たことを校内に還元した(する予定である)	7%	25%	43%	54%	38%	14%	13%	7%
13	他の教員の授業を参観したり、自身の授業を公開したりすることができている	38%	39%	41%	44%	14%	14%	7%	3%
14	校内授業研究は、自分自身の授業力向上、資質向上につながっている	34%	56%	50%	39%	11%	3%	5%	2%

(自由記述より一部抜粋)

- ・テーマが明確に設定されていて、目標を考えながらできたのがよかったです。
- ・研究授業を通して観点別評価について具体的に考えることができたので良かったです。

4 今後に向けて

(1) 今年度の課題

- ① 教科内での指導方法の検討・共有が不十分
 - ・教科で指導案検討をするように計画を立てていても、授業者任せになることが多い。
 - ・テスト問題と関連させた授業実践の取組みの共有と集積を企画したが、うまくいかなかった。
 - ・評価の観点の共有を通して指導方法を共有しようとしても、特に高校は難航している。
- ② 授業改革WEEKS中でも、「教室への出入り自由」には壁がある
 - ・授業見学（授業改革WEEKS）そのものには肯定的な声も多く、前向きな雰囲気になりつつある。
 - ・授業改革WEEKS中は「授業中の教室への出入りは自由。事前に言わなくても可。短時間でも可。」としているが、事前に声を掛けないことや最初から最後まで見ないことに対して「失礼だ」と感じる教員も多く、「見に行きたいけど事前に声を掛けそびれたので行けない」ということがあった。
 - ・中高の校種を越えた見学が少ない。

(2) 次年度に向けて

- ◎ 授業研究の取組みを日常的なものにするしかけを作る
 - ① 授業実践の交流
 - ・授業改革推進委員会のメンバーが、毎月の職員会議の際に短時間で授業実践やテスト問題との関連などを報告するようにし、指導方法や問題作成、観点別学習評価等について話すことを身近に感じられるようにする。
 - ・テスト問題とそれに関連する学習活動の集積のシートを何枚か印刷室に掲示する。
⇒今年度不十分であった、テスト問題に関連する学習活動の共有と集積につなげ、授業内容や指導方法について検討する材料としたい。
 - ② 相互授業見学の定着
 - ・授業見学に対する前向きな声を共有し、自由見学を含む授業見学への気運を高める。
 - ・授業改革WEEKS以外にも、声を掛け合って見学し合えるようになる。
- ◎ 「探究のプロセスを含む授業改善」について学ぶ
本校のSSHの取組と協同して、「探究のプロセスを含む授業改善」や「探究の指導法を用いた授業改善」についての理解を深め、授業改善につなげる。
- ◎ 生徒の変容から取組みの成果を測る
 - ・授業観察の視点として、生徒の変容に目を向けるという視点を持つ。
 - ・生徒の変容を測るものとして、生徒の自己評価以外の指標を考える。

令和3年度 校内研修年間実施報告

1 令和3年度の目標(テーマ・主題)

<p>「 確かな学力を育成する“授業・評価”サイクルづくり ～ アクティブ・ラーニングによる思考力・判断力・表現力の育成とその評価 ～ 」</p>

2 実施日・内容等

月	日	校 内 研 究 の 実 際	
		研究推進委員会 等 ※ 左記の取組の主催部署を記入	教職員全体研修会 等
<u>毎週</u>	<u>木曜</u>	授業改革推進委員会 左記の取組の準備・振り返りを中心に、授業研究の取組等について話し合いを実施。	
4	8	授業改革推進委員会より	教室環境整備をはじめ、授業改革 WEEKS について職員会議で周知
4	19	～5月21日まで	授業改革 WEEKS BASIC(授業交流週間)
4	22	学習部(中学教務部)主催	<u>中学</u> 評価の算出方法についての研修会
5	15	高校進路指導部主催(河合塾より講師)	難関大学受験に対応した学習指導研修(国数英)
5	20	学力向上推進委員会・授業改革推進委員会 共催	考査の問題設定と、授業づくり・観点別学習状況評価についての全体研修
6	1	学習部・ベネッセ主催 ※高校も随時実施	<u>中学</u> 学力推移調査(スタサポ)についての研修①
6	28	道徳教育推進委員会、授業改革推進委員会	<u>中学</u> 授業づくり研修(高校は参加自由)
8	26	授業改革推進委員会主催	<u>観点別学習状況評価に関する全体研修</u>
9	10	学習部(中学教務部)主催	<u>高校</u> 評価の算出方法についての研修会
10	15	学習部・ベネッセ主催	<u>中学</u> 学力推移調査(スタサポ)についての研修②
10	中旬	授業改革推進委員会、各教科会	思・判・表を育成する授業づくりについての交流
10	25	～11月26日まで	授業改革 WEEKS ADVANCED(授業交流週間) 各教科会で日程を調整し、教科研究授業を実施

11	10	授業改革推進委員会主催	<u>地域公開授業(授業改革 DAY)</u> <u>中英語、高理科、高国語で研究授業・討議</u> <u>(当該クラス以外は6・7限授業カット、全教員参加)</u> 研究テーマに関する全体会(講演会)の実施
12	12	学習部・ベネッセ主催	<u>中学</u> 総合学力調査等についての研修
12	下旬	授業改革推進委員会より	校内授業研究アンケートを実施
1	27	次年度の地域公開授業全体会の講師を決定	
2	4	授業改革推進委員会より	職員会議で、1年間の授業研究の取組を共有 ・研修会で出た質問への回答 ・授業改革 WEEKS の振り返り ・校内授業研究アンケートの結果
2	9	(授業改革推進委員会) 今後の授業研究の方向性と、次年度のテーマの決定	

令和4年度 校内研修年間計画

1 令和4年度の目標(テーマ・主題)

「 確かな学力を育成する“授業・評価”サイクルづくり ～ 探究のプロセスを応用した、思考力・判断力・表現力の育成とその評価 ～ 」(仮)

2 年間予定

月	日	校 内 研 究 計 画	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
毎週		<u>授業改革推進委員会(時間割に入れる)</u> 授業研究に係る取組の計画・振り返り等	
4	2	授業改革推進委員会 今年度の研究テーマや方針について確認	
4	7		職員会議 教室環境整備や研究テーマ、授業改革WEEKS BASIC について共有
4		～5月	授業改革 WEEKS BASIC (年度初めの授業見学週間)の実施
5			職員研修 「探究のプロセスを含む授業改善」について、他校の事例を中心に学ぶ
8			職員研修 「探究のプロセスを含む授業改善」をテーマに研修を実施(京都大:石井先生(予定))
10		～11月	授業改革 WEEKS ADVANCED (研究テーマを視点とする授業見学週間)の実施
10		～11月	教科研究授業の実施
11	16		<u>地域公開授業(授業改革 DAY)</u> ・3科目の研究授業 ・全体会(京都大:石井先生)
12			授業改革 WEEKS・DAY の振り返りの共有
12			校内授業研究アンケートの実施
2		授業改革推進委員会 今年度の振り返り、次年度の計画	